

研究のあしあと

令和4年度 久美浜小学校研究推進部

令和4年1月

今年度の研究主題は、「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造～自分・人・地域とつながり、かかわる～」です。

今年度初めてになる、総合的な学習の時間の研究授業を5年生の和田先生にお世話になりました。

研究授業からの学びを「研究のあしあと」にしていきます。これをもとに、日々の実践に生かしていただければと思います。大変遅くなり、すみません。



11月18日（金）5校時 校内研究授業

「丹後の米のおいしさのひみつを探ろう

～お米から地域のよさを伝えよう～」

5年生 授業者 和田 映子



参観の視点

- (1) 主体的に課題をもって探求する授業について
- (2) 単元全体を通して、地域（自分の身の回りの人を含む）と人とのつながりを深めることについて

研究主題としてのかかわり

本単元を通して、丹後の米の良さを実感する中で地域の良さを理解し、地域を愛する心を育てていきたい。また、地域の農家の話を聞くことにより、児童が地域の一員としての自覚をもち、地域の人のつながりを感じ、進んで地域活動に取り組んでいこうとする気持ちを高めさせたい。

事前研究会 <10月19日（水）> 司会・川上 記録・淀

授業者より

- ・「久美浜のお米」とくくらずに、「丹後のお米」と変更した。
- ・1学期は一般的な米作りについて
→発表もして理解深まった。
- ・2学期は丹後のお米のおいしさにつながる米作り、環境の良さへ
- ・最終ゴールが、地域の良さ、人の良さにも視点を向けて1学期よりいろいろな表現ができればいい。

意見・質問

- ・どのようなグループ分けがあるのか。
- ・久美浜の上流は美味しい。（水）丹後となるとどうなるのか？
→水に関しては、農家の人から話をしてもらって、児童は気づいている様子。
- ・意見や質問が出にくかったら？
→前時から視点を与え、こんなことを質問したらいいということを教えてはどうか。
- ・めあて・・・「意見を伝え合おう」でなく「深めよう」「掘り下げよう」などはどうか。

研究授業・事後研究会 <11月18日（金）> 司会・佐藤 記録・川上（高学年グループ）

参観の視点（1）主体的に課題をもって探求する授業について

- ・グループ発表の聞く態度、追求していく姿は主体的であった。
- ・画像を取り入れるなど、まとめている内容は、わかりやすかった。課題探求、整理を一生懸命にして、発表に繋げ

ることができていてよかった。

- ・言葉で理解しにくい子もいる中で、自分の見たいシートを手元でフィードバックできるので、ICTの効果的活用ができていた。
- ・発表後の待っている短時間にどんな質問がくるのかを予想したり、単語の意味を調べたりするなどの学習方法もよかった。



参観の視点（２）地域とのつながりを深めることについて

- ・webでは一般的になってしまうが、地域の方に電話をしたり、アンケートをとったりするなど自分たちでできる方法で動いて、探り、追求していくことで深まっていくことができる。
- ・何も知らないまま終わるのではなく、少しでも丹後のお米について知ることができたことは、地域の良さへの気づきにつなげることができる。

その他（今後の課題も含め）

- ・単元のゴールをどうするのか、何のために誰に発表するのか、道筋をしっかりとっていく。そうすることで、言葉の使い方、発表の仕方も変わるので、児童にしっかりと示しておくことが大事。
- ・おいしいお米作りの要因として、「土・肥料」は一般的になってしまうところがあり、京丹後と結びつきにくさがあるかもしれないが、気候、自然環境に関してはやりやすい。
- ・グループ発表の伝え合いは、回数を重ねることで知識・技能的、思考的な視点が獲得され、さらに高まり合えるのではないかな。



〈授業者の振り返り〉 ※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、その後の学習は？

一次調査、グループ発表を終えて、たくさんの情報を集め、聞いたまま、書いてあったまま自分たちのまとめに載せればよい、という児童の考え方が変わったと思う。各グループが発表し合い、お互いに意見を出し合うことで、聞いたことや調べた言葉をまとめにそのまま表現しても、自分もしっかりと理解できていないことや相手に伝わりにくいこともあるということに気付くことができ、調べたことに対しての理解をより深めていくきっかけとなった。

その後の二次調査では、指摘された点や曖昧に理解していた点について更に詳しく調べていくことができた。（時間がなく、インタビュー等地域の人と関わりながらの調査が十分にはできなかったが。）そして、分かったことを一次調査の時と同じようにまとめるのではなく、丹後の米作りの良さや工夫、おいしさをもっといろいろな人に伝えるためにはどんな方法で発信できるかを考えた。ホームページでの発信や動画（CM）、パンフレット、ポスターなど、様々な方法でやってみたいという意見があり、今後、児童が主体的に取り組み、学校や地域の人との関わりながら、発信できるようにしていきたいと考えている。

～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

9月に京都府総合教育センターの辻村主任研究主事兼指導主事様に講義をしていただき、
「調べ学習のようにすぐ明確な答えを見つけるのではない。 知的好奇心をくすぐるような課題設定が必要である。」

という話をいただいた。学習活動の最初に「お米の食べ比べ」という体験的な活動をすることで、知的好奇心をくすぐるような課題設定ができ、主体的で探究的な学習に繋がったのではないかな。また、webでは一般的な情報しか得られないが、直接地域の方に自分たちでできる方法（取材・アンケート・電話など）で情報収集することで、地域の良さや地域の方の米作りについての思いや苦労などの理解に繋げることができると思った。指導者側が、単元のゴールを明確にもち、その過程で児童にどんな力を付けたいのか、どんな道筋をたどればいいのかをきちんともっていくことはこれからも大切にしていきたい。